2　多様な場面での子どもの活用とそれを促す工夫

子どもが「心のノート」を活用する場面は，全ての教育活動で多岐にわたって考えられる。学校では，子どもが日常的に用いることを基本に，各教科等の学習活動，特に道徳の時間に生かすことで，子どもの活用が一層促される。活用の工夫や主な留意点を以下に例示する。

（1）　学校や家庭の日常生活の中で子どもが活用する

例えば，学校においては，朝や帰りの話合いや読書タイム，休み時間や放課後などの時間などでの活用が考えられる。また，学級に掲示コーナーを作るのも一つの工夫である。家庭においても子どもが活用したり，家族と話題にしたりすることが期待される。そのために，日にちを決めて書き込む時間を設定したり，長期休業中の活用を促したり，家庭で家族と話題にすることを子どもに助言したりすることなどが考えられる。

（2）　各教科の学習内容との関連で活用する

各教科の内容と関連する「心のノート」のページを教材として用いることが考えられる。例えば，挨拶などの礼儀の内容や読書を推奨するページなどは国語科との関わりで用いることができる。郷土や我が国の伝統と文化，国際理解等に関わるページは，社会科，生活科，音楽科，図画工作科，美術科などの内容と関連させて用いることができる。また，各教科との関連で「心のノート」を生かすことで，それぞれの学習が自分の生き方に強く関わっていることを子ども自身がより強く意識することが期待される。

具体的には，調べたり話し合ったりするときの補助教材としたり，動機付けやまとめの際の情報として生かしたりすることが考えられる。

（3）　道徳の時間で活用する

道徳の時間の教材として「心のノート」を活用することもできる。「心のノート」の内容が子どもの心に響くメッセージやイラストなどを中心として構成されているので，その教材の性格から，道徳の時間においては補助的な資料として用いることが多いと考えられるが，1時間を通して活用する教材として指導計画に位置付けて生かすことも考えられる。

道徳の時間においては，例えば，次のような場面で活用することが考えられる。

①導入段階の題材として，文やイラスト，写真を用いて主題への関心を高める。
②展開段階の資料として，ある内容項目に関する4ページの構成全体を生かしたり，詩や作文，いくつかの絵や写真で構成されたページを生かしたりして内容を深める。
③展開段階の補助資料として，話合いを一層深めるための参考としたり，新たな道徳的価値に気付くための手掛かりとしたりする際に用いる。
④子どもが自己の体験を想起するときに，記入する時間をつくったり，記入した内容を発表し合ったりするために用いる。
⑤終末段階の題材として，名言や詩などを用いて学習したことの明確化を図るために用いる。
⑥道徳の時間の事前に学習につながる問いを考えたり，関連するページに記入したりする。なお，教師が指導に用いる際，各ページの内容への子どもの受け止めを大切にし，子どもが自己を見る目を豊かにするきっかけとなるような生かし方をすることが大切である。

（4）　外国語活動（小学校第5学年及び第6学年）で活用する

外国語活動では，外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験しながらコミュニケーション能力の素地を養うとともに，日本と外国との生活，習慣，行事などの違いや多様なものの見方や考え方があることを知り，外国や我が国の文化の理解を深めることができるようにする学習を主としている。その際，「心のノート」で我が国の文化を知ったり，世界に視野を広げたりすることに役立てることができる。例えば，「心のノート」に紹介されている俳句などから日本の文化を知る手掛かりとしたり，地球という一つの星に乗り合わせた同じ人間として，異なる文化などを理解する心が世界を結ぶことにつながることを考えたりすることができる。

（5）　総合的な学習の時間の動機付けや自らの生き方を考える際などに活用する

総合的な学習の時間では，「心のノート」を課題を見つけるヒントにしたり，体験的な学習への動機付けとしたりして役立てることができる。例えば，「心のノート」にも，国際理解，情報，環境問題，福祉や健康，伝統と文化に関わる題材などが織り込まれている。それらの図や写真，メッセージを拡大して提示し，考えを深めるための情報などとして生かすことができる。

（6）　特別活動の各内容と関連させて活用する

特別活動では，特に学級活動における活用が考えられる。小学校においては，例えば，学級活動（2），とりわけ「希望や目標をもって生きる態度の形成」や「基本的な生活習慣の形成」などで，中学校においては，（2）の「社会の一員としての自覚と責任」「望ましい人間関係の確立」，「望ましい人間関係の形成」に関わる指導などで生かすことができる。また，学級活動（1）においても，子ども自身が生活上の諸問題の解決や集団生活の向上などを目指した話合い活動，あるいは，協力して楽しい学級や学校の生活づくりに参画する自主的な取組などの中で活用することができる。学校行事においては，例えば，様々な活動の事前指導や事後に体験したことを振り返り，まとめたり，発表し合ったりする活動などに，また，動機付けを図る際の題材としても生かすこともできる。児童会（生徒会）活動における自治的な活動や共通の興味や関心を追求するクラブ活動でも，子どもの自発的な取組への動機付けの際などに生かすことができる。

なお，学級活動（1）や，児童会（生徒会）活動などの子どもの自発的，自治的な実践が中心となる活動においては，教師が助言等で補助的に用いるなどして，子どもの自主的，実践的な態度が育まれるよう配慮することが大切である。

（7）　学校，家庭，地域社会の連携を図るために教師や保護者，地域の人々が用いる

「心のノート」には，大人が読んでも生き方を考えることのできるページが多くある。学校で，家庭で，また，地域社会などで子どもと一緒に話し合い，子ども理解を深める題材とすることができる。学年通信や保護者会などで紹介し，大人が連携して活用することも考えられる。

例えば，教師，保護者，地域の人々による連絡協議会や懇談会などで道徳教育について話題にするときに，「心のノート」の内容を提示することによって，道徳教育への共通理解を深めることができる。また，道徳の時間の公開授業での活用，各種通信や地域掲示板での利用等によって，連携をより一層充実させることができる。

（8）　その他，各学校間交流の際などに子どもや大人が活用する

各学校同士の交流の際にも，「心のノート」を用いて多様な交流を促すことができる。

例えば，隣接する小・中学校の子どもが互いの意見を交換する際に「心のノート」を生かした話合いをすることが考えられる。また，同じ学年段階の子どもたちが共通のページを見ることができるという利点を生かし，学校間の意見交流会をもつことも考えられる。

このような場合，子ども同士が互いに高め合うという意識で用いるように工夫することが大切である。また，子どもの個人的な情報の取扱いには十分に配慮しなくてはならない。